

クラス担任のための Career Guidance

2014 >> VOL.23

【キャリアガイダンス 特別編集】



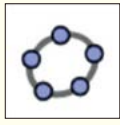
取材に協力してくれた先生方が勧める便利アプリ

■英語辞書



「英辞郎 on the WEB」
単語の使い分け例文なども豊富な
ので、翻訳や英作文の際に便利。

■数学①



「GeoGebra」
グラフ描画するアプリ。関数やグラフ
学習に利用できる。

■数学②



「MyScript Calculator」
計算機アプリはいろいろあるが、これ
は手書きの数式を計算してくれる電
卓。シンプルで使いやすい。

■理科



「原子核」
原子の構造学習ができる。ビジュ
アル化によって印象に残りやすい。

■美術



「Timeline-Art Museum」
絵画を無料で閲覧できる。美術史の
学習に。

■地図



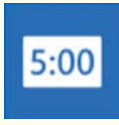
「Google Maps」
動かせる地図帳として。地理はもちろん、
歴史や英語、国語など、さまざま
な教科で活用できる。

■授業サポート①



「AC Flip」
授業を進めながら、PDFや画像で作成
した資料の好きな場所に付箋を貼った
り剥がしたりできる。なので、その場で
簡単にクイズ形式の問題も出せる。

■授業サポート②



「Lightning Talk Timer」
画面いっぱいに表示されるタイマー。
あと何分、というアナウンスをしなく
ても時間管理しやすくなる。

■授業サポート③



「PingPong-リアルタイムアンケートシステム」
○×形式、選択式、テキスト、お絵描
きなど、いろいろなアンケートやクイズ
の出題・回収ができる。スクリーンに
映せば回答の共有も可能。

■教材・資料作成サポート①



「CamScanner HD」
プリントや本を写すと、ある程度自動
で補正して画像にしてくれる。

■教材・資料作成サポート②



「Educreations Interactive Whiteboard」
ホワイトボードに書き込むように画像
も取り込み、解説の音声も記録。簡
単に動画教材が作成できる。

■教材・資料作成サポート③



「Keynote」
iPhoneやiPadなどでパワーポイント
が使えなくても、プレゼン資料を簡単
に作成できるアプリ。

楽しく学べる

授業が変わるアプリ&Webサービス

今手元にあるスマホやタブレット端末を活用すると、授業やクラス運営が少し楽しくなったり、効率化したり。そんなヒントをご紹介します。

取材文／清水由佳ライター・キャリアカウンセラー

手軽に使えるアプリで
生徒の集中力をアップ

ICT教育というと、とかく大がかりな導入事例が紹介されがち。しかし、練習問題を解くときや話し合いなどの際に、パソコン画面にタイマーを表示して時間管理するだけでも、楽しい雰囲気演出でき、生徒の集中度が上がることもあるという。

例えば、智学館中等教育学校で物理を教える井戸賀和美先生は、速度や加速度実験にストップウォッチアプリを活用したり、物質量の概念を知るために計算機能を利用したり。生徒にとって身近な携帯電話やスマホのアプリを使うと、生徒が授業に取

り組みやすくなるという。また、北海道千歳高校英語科の山崎秀樹先生は、「発音練習や語彙の検索、映像や画像の検索など、英語の授業では使えるアプリやWebサイトはいくつもあります。教科書の中の話もニュース検索してみたり、 구글アースなどで実際の地域をビジュアルで知ると、生徒にはわかりやすいようですね」と話す。

抽象概念がビジュアル化される、学んでいることと現実が近づいていく。それによって、生徒の授業への集中力が上がるのではないだろうか。

生徒に役立つものは、
教師の仕事の効率化にもつながる

関東第一高校で数学を教える横山北斗先生は、同校のICT導入準備係でもある。そのため、日頃からさまざまなアプリをチカラにし、授業の中で積極的にWebサービスやアプリを活用している。取材に訪れた日にも、定期試験を前に、生徒はエドニティ(学校向けに開発された無料のコミュニケーションツール。チャット機能のような情報共有と、Web上でファイルを保管・閲覧できるサービス)にあらかじめ横山先生がアップしておいた問題を見て解き、時にはグループ内で教え合い、最後に先生がポイントをまとめて解

説するというスタイルで授業を進めていた。

「問題を板書するとそれだけ時間がかかりすぎ、プリントで配ると印刷の時間が意外にばかにならない。授業だけでなく、各種のお知らせなどもアップしてあるので、生徒はいつでも確認でき、プリントをなくしてわからないということもなくなりました」横山先生

さらに、授業をiPadで録画し、YouTubeに上げていたので、生徒は自宅でも繰り返し授業を確認でき、休んでいた生徒のためにも役立つ。



関東第一高校 教務主任・ICT導入準備係 横山北斗先生

「グループライブなど無料のオンラインストレージを使えば、ファイルの共有は手軽に始めることができます」

ICT導入準備として、まず実験や検証のために横山先生のクラスでは、4月から生徒全員にiPadを貸与し、毎日の勉強や連絡などに活用。他のクラスでも、グループ学習の際など、グループに1つのiPadを使って、調べ学習などに役立っている。

生徒間はもちろん、 教師との距離も近づく

広尾学園で生物を担当する木村健太先生は現在、生徒の本格的な論文精読の指導も行っている。

「科学や生物など研究テーマに応じて、その分野に詳しい教員が指導教官となり、大学生レベルの英文の論文精読に挑戦しています。4年前から始めている取り組みですが、生徒のポテンシャルの高さに改めて驚いています」

Webを通じて海外や最先端の研究論文なども高校生がアクセスできる。だからこそ、可能になっている研究活動だ。

「この指導において欠かせないのが

これらはすべて、アクセス制限をかけることで、生徒にのみ公開することができるので安心。

「文化祭の準備では生徒同士がこのツール上で主体的に討論していました。生徒にとって便利なのはもちろん、実は教員の事務的な仕事の効率化にもつながり、その分、生徒としっかりかわる時間をとれるのがうれし



広尾学園中学校・高等学校 医進・サイエンスコースマネージャー 教諭 木村健太先生

「ネット活用での問題を懸念する声もありますが、生徒はすでにその危険にさらされているので、一緒に使いながら教えることも大事ではないでしょうか」

Google Apps for Educationというサービスです。メールやスケジュール、ドキュメントなど、すべてをこれで管理することで、生徒間の議論も、教師との連絡や指導のやりとりも、効率的に行うことができます」

これらの活動を通じて、生徒と教員がまるで同士か仲間のように論文研究を楽しみ、生徒と教員との距離はぐっと縮まっている。このサービスは学校単位で申し込む必要があるのですが、「無料のGmailを活用して授業や部活のスケジュールを書き込み、予定の共有から始めるのも可能で、興味のある先生が、まずは気軽に始めてみることも大切かもしれません」と、木村先生はアドバイスする。

Career Guidance

最新号 Vol.403号 2014年7月発行

■巻頭特集
生徒が進路に向かって動き出す
個別指導

- これからの担い手とはどうあるべきか
品川女子学院 校長 漆紫穂子先生
- [実践レポート] 校内研修で個別面談力を高める
研修指導 明治大学文学部 教授 諸富祥彦先生
- 明日からの面談に生かせる問かけ技法

■特別企画
日本の高校はグローバル人材を育成できるのか？
SGH指定校の挑戦

「キャリアガイダンス」誌は全国の高校に贈呈しています(校長、教頭、副校長、進路指導主事先生宛に郵送)
バックナンバーの記事はすべてWEBサイトで閲覧いただけます
http://souken.shingakunet.com/career_g/ キュリアガイダンス 検索